

東日本大震災その後

～校友会が力になれたこと、そしてこれからも～



日本周辺における観測史上最大の地震が引き起こした東日本大震災は、多くの校友にも甚大な被害をもたらしました。校友会は全国の会員とともにいち早く、被災された皆様に救いの手を差し伸べました。しかし被災各県ともに、その復興は思うように進んでいないのが現状です。あれから3年が経ちましたが、校友会としては引き続き被災された皆様に励まし、校友会会員と一致団結して応援していかなければならないと考えています。

宮城県

東日本大震災と 日本歯科大学校友会

宮城県校友会
吉田守克(76回)

東日本大震災にて自宅、診療所ともに4mの津波を受けました(写真上)。自宅周囲で20名、診療所周囲で50名の方が犠牲になった地域で診療所を修復し、震災の2か月半後から診療を行っております。カルテのデータは市外にバックアップがあり、レントゲンのデータも水没したハードディスクから復元できましたので身元不明の方々の確認ができました。そこまでが歯科医師としての責務と考えています。

人口は激減し、医科、歯科の診療所が相次いで移転する中、20年この地で歯科医

療を行っている自分がここに残ることは少なからず医療崩壊した被災地には貢献できると思い、日々患者さん方と向き合っております。

「ここには10年後の日本がある」医療支援で他県から来られた先生の言葉です。産業が崩壊したため、働き手が移住し超高齢化社会が一気にやってきました。とりえず当院を受診し何科を受診したら良いか？という患者さんもいます。さながら、街の交番の医療版でしょうか。

こうして診療を行えるのも日本歯科大学校友会のご支援と先輩、同輩、後輩のお蔭と感謝しております。全国から校友の皆様が支援物資を積んで自ら車を運転し、当院に届けてくれました。学生の皆さんにお伝えしたい事が1つございます。それは、今回の津波で全壊と評された診療所で最も早く復旧したのがあなた方の日本歯科大学校友会の診療所であったということです。

校友会からのご挨拶

青柳 裕易 副会長(69回)



校友会から学生の皆様にご挨拶申し上げます。と言っても何も別のどこかの人間ではなく、基本的に同じ日本歯科大学の学生の現在形と過去形であるわけですが、気持ちは現在形です。100年を超えるその歴史の中で、連続とつながった絆の一部分同志からのご挨拶と受け取りください。

校友会は明治42年6月6日に設立された「日本歯科醫學校同窓會」を始まりとするとされていますが、「校友会発開式」がその年の12月3日に行なわれています。天気晴朗だったと記録されていますが、「同窓會」とは少し違う組織だったようです。役員名簿には学生の代表が名を連ねています。校舎や校名、規則の変更が短期間で行なわれたうえ、国の医学制度にも頻繁な変更があった時期の影響と思われます。

戦後、現在の「校友会」になってからも内容は大きく変革しつつあります。最近10年ほどは学生の皆さんや学校との絆をより太いものにしようと、様々な事業を模索、実行してきました。まさに「校友会」に先祖返りしたような面白さを感じます。今後ともより一層の連帯を築き上げるよう努力して参りますのでよろしくお願いたします。

福島県

「フクシマ」 東日本大震災3年後の今

福島県校友会

木幡 孝(72回)

今年3月で発災から3年をむかえる南相馬市の現状をご報告申し上げます。

私の住む南相馬市は福島第一原発から、20km圏内、30km圏内、それ以外の地域と大きく3等分されています。20kmより外側は震災6ヶ月後には規制区域から除外され、ほぼ日常の生活を取り戻すことができました。20km圏内も2年後の昨年4月に規制がやや緩和され、やっと昼間に限って自由に立ち入りできるようになりました。ただ2年間人間の住んでいない住居は、とても住めるような状態ではありません。加えて全半壊の住宅の取り壊し、道路電気水道の復旧をするにも、いくら線量が低下したとはいえ、危険地帯ということで公共の入札に応じる業者も少なく、遅々として進まない状



南相馬市の20km圏内小高地区のメインストリート

況です。当然、その地に開業されていた5件の歯科医院も、未だに帰還の目途が立っていません。

人口について公には、震災前約71,000人から65,000人と6,000人の流出となっていますが、実際に戻っている数は50,000人あまり、18歳以下に限ると6割ほどと言われ、年齢が下がるほどその割合は大きく、当然それに伴う子育て世代も帰還できない状況となっています。この層が就労年齢になっても、この地で職を求め定住する選択をする方がどれだけいるのでしょうか。田畑を持ち兼業農家として、また漁師として収入を得ていた人びとも、田畑と漁場が放射線に汚染され農業漁業が壊滅してしまいました。震災前のように、いつ自然の恵みを得られるかもわ

からないまま、移住という決断を迫られている家族が多数います。

このように若年世代が定住せず、急速に高齢化が進むこの地域に、将来の希望は本当にあるのでしょうか。この地に住む者は誰もその答えを持ち合わせていません。できれば移住したい…。しかし、それはその先に同じ収入が得られる保証があればの話で、そう若くもなければその方の“冒険”になってしまいます。このことは福島県の歯科業界も私たち歯科医師も同じなのです。それでも必死にしがみついていくしかないのです。それが正解なのかどうか、いまだに自問自答を繰り返す毎日なのです。



特別許可がないと立ち入りできない区域が今だにある

岩手県

東日本大震災その後 ～復興の現状について:報告～

岩手県校友会

平野康紀(76回)

「あまちゃん」人気で沿岸久慈市界隈が賑わい、国際リニアコライダー(ILC: 超高エネルギー電子・陽電子衝突実験加速器)誘致の国内候補地が北上山地に決定、ソチオリンピックにはノルディック複合永井選手とカーリング苫米地選手、2名の岩手県出身ア

スリートが出場を決めました。

未来につながる明るいニュースにワクワクしながら、それでもちょっと足もとを見ると重く厳しい現実気がつきます。

東日本大震災で岩手県内に発生した449万トンに及ぶ瓦礫の処理は、実に3年の時を費やしこの3月に完了の予定です。沈下した地盤のかさ上げは被災地のごく一部で始まりましました。しかし具体的な計画もなく、住民の居住地すら確保できていない地域が多く残っています。街並みには活気もあり、人々が普通に過ごしているように見えてもその帰る先は

仮設住宅や災害公営住宅であり、生活再建や復興には未だ程遠い状況が続いています。

日本選手権7連覇の歴史のある「新日鉄釜石」ラグビーチームが2001年、地元釜石に密着したクラブチーム「釜石シーウェイブスRFC」として生まれ変わり、地域では2019年日本開催ワールドカップの釜石招致活動を展開しようとしています。世界に冠たる経済大国としては、あまりに遅い復興の動きに静かに憤りを感じながらも、日常生活の僅かな改善から地域ぐるみの大きな活動まで、人々は希望をもって暮らしています。



2011年3月の釜石市内

福成和幸(63回)・撮影



2014年1月25日野田村十府ヶ浦海岸と高台移転造成工事

村田昌明(67回)・撮影

学生の皆様にもこの現状を知っていただき、被災住民と地域の明日につながっていくためにも、東北の被災三県それぞれの現状に、ときどき思いを馳せ見守っていただければ幸いです。以上、ご支援いただいた校友会の皆様へのご報告とさせていただきます。

校友会・学生会 特別講義

●平成25年11月26日(火)・生命歯学部 九段ホール

演題：「**超高齢社会とかかりつけ歯科医**」

～地域医療保健現場から皆様へのメッセージ～

講師：細野 純 先生(64回)

●平成25年12月6日(金)・新潟生命歯学部 アイヴィホール

演題：「**上流医療 医科・歯科の融合**」

～口腔をきれいにすると全身もきれいになる・

これからの歯科医師がしなければならない食育・息育～

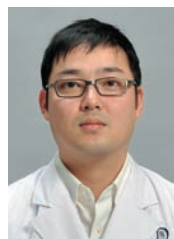
講師：鈴木公子 先生(73回)



それぞれに特色のある素晴らしいご講義をしていただきました。「今回の講義が将来の選択のためになったか」「地域医療に対して興味を持てたか」というアンケートには、「はい」との回答がほぼ100パーセントでした。12回目を数える特別講義も回を追うごとに、学生会との打ち合わせも円滑に進むようになり、確実に学生さんたち、大学の先生方、校友会との距離は近くなったと感じました。

細野 純 先生の特別講義を拝聴して

超 高齢社会を迎え歯科界が果たすべき義務は、様々な疾患や障害をもつ高齢者への治療上の知識・技術・医療連携を学び、実践しなければならないこと。また地域歯科保健医療では高齢者だけに特化するのではなく、患者さんのライフステージに沿った歯科保健医療を展開し、その中の一つとして高齢者保健があるということをお話いただきました。また歯科医師法第一条「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」より、「かかりつけ歯科医」としてのハイリスクアプローチだけでなく、ポピュレーションアプローチ、つまり歯科医師会の会員として地域・行政と連携し、公衆衛生の向上・増進に努めることが歯科医師の義務であるということも良く理解できました。



生命歯学部5年 大山 豪

鈴木公子先生の特別講義を拝聴して

鈴 木先生はご自身の肺炎などの通院生活を通して、また「病気の根本にある原因を取り除くことで病気にならない。病気には必ず病気になる原因がある」という言葉を聞かれ、病気になる一番の原因は食生活にあると気づき、食事療法を続けるうちにご自身の病気も治り始めたそうです。そして、「このようなすごい力があるならば患者さんにも伝えなければならない」、という強い思いから講演活動を始められました。食生活の乱れから生じる齲蝕や歯周病が増えている現在、そういった患者さんが来院された際、なぜ疾病が起こったのか、その原因を患者さんから聞き出すことが大切であり、食事の乱れが原因だと患者さん自身に自覚してもらうことが、病気の治療をする前の段階で、患者さんにとって必要なことだと思いました。



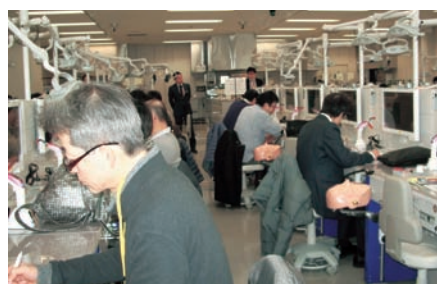
新潟生命歯学部5年 水野 久子

学術フォーラム2014

平 成26年2月16日(日)、日本歯科大学生命歯学部において「学術フォーラム2014」が開催されました。学術フォーラムとは、校友会会員を対象に、毎年各分野でご活躍されている先生を講師に招いて講義や実習を行うものです。今年は会場を3つに分け、生命歯学部、附属病院、新潟生命歯学部、新潟病院、そして開業医の先生ら総勢12名の先生方の講演が行われました。内容はどれも最先端で、なおかつ日常の臨床に即した大変興味深いものばかりでしたが、当日は大雪の影響で交通機関が乱れ、参加できなかった先生方もいらっしゃいました。このフォーラムは、講師も受講者も皆校友のため、気兼ねなく活発に質問や意見交換を行えるのが特徴の一つです。また、思いがけず懐かしい仲間との再会を喜ぶ姿もあち

こちで見受けられ、これもこのフォーラムならではの光景と言えます。

歯科医師という職業は、大学を卒業し国家試験に合格したからといって勉強が終わるわけではなく、定期的に知識や技術を「上書き保存」することが必要です。この日も沢山の先生方の知識が上書き保存され、明日からの臨床に役立てられていることでしょう。



久しぶりの実習室で、熱心にペンを走らす先生方です



校友君インフォメーション

校友会主催
女性歯科医師の集い2014

日時：平成26年4月20日(日)
10:30～15:00

場所：生命歯学部 九段ホール

講演Ⅰ：ホワイトニング最前線

～アメリカの最新審美治療～

講師：橋 知之先生(77回)

講演Ⅱ：私の履歴書

～女性歯科医師として生きる～

講師：倉治ななえ先生(68回)

定員：男女学生 先着30名

申込：校友会本部事務局

TEL 03-3261-8971

ビュッフェスタイルでお食事をご用意いたしますので、学生の皆様も奮ってご参加ください。

幹部交代式の報告

平成25年12月9日(金)に新潟生命歯学部内のレストラン・スクエアにて、中原泉理事長・学長、お祝いをいただいた校友会から藤井重壽先生・橋本博之先生を始めとする多くの先生方ご臨席の下、平成25年度の学生会員幹部交代式が執り行われました。

幹部交代式は、立食形式の食事が用意され、大先輩である先生方

との距離感が近く、とても和やかな雰囲気の中進んでいきました。私は、退く立場として役員交代式に参加させていただきましたが、今年度、一緒に頑張ってきた仲間そして後輩たちへ、今まで伝えられなかった感謝の気持ちや託したい思いを伝えることができ、とてもよい機会となりました。

また、新役員となる後輩たちから

も、それぞれが力強く頼もしい決意表明を聞くことができ、不安はなく期待を持って、たすきを渡し交代できると確信しました。

来年度より、新潟生命歯学部の学生会員会新体制として、学生会員会委員長に久代洋貴(4年)、浜浦祭実行委員長に山下萌(3年)、学術会会長に武内柚香里(4年)、文化会会長に竹村舟(3年)、体育会会長に今井純平(2年)が就任します。学部全体を盛り上げるため、頑張ってくれることと思います。後輩たちへ



みんなたすきがつながってくれることを願い、応援する立場へまわりたいと思います。今後ともお力添えのほどよろしくお願い致します。

新潟生命歯学部 5年
土方洋介

冬季球技大会

平成25年度冬季球技大会が昨年の12月7日に行われました。



まずは急な日程の変更にも関わらず参加していただいた、学生部と校友会

会(お祝いをいただき、ありがとうございました)の先生方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

今年度より、実習やバイトなどで放課後球

技大会に参加できなかった学生にも参加できるようにと、体育会では夏季にない冬季球技大会も1日で行う形式にしました。最初は「大学生にもなって縄跳びとドッチボールなんて」と斜に構えていた学生も、次第に競技に白熱していく様子を見て、今後このような楽しい学生の交流の場を大事にしていきたい、と強く思いました。

普段の学校生活や部活動では見られない先輩や同級生の違った一面が

見られたら、実行委員長として何よりの喜びです。

最後になりますが、こんな頼りない実行委員長でもこのように球技大会を成功させることができたのは後輩の体育会員や同期の体育会員がサポートしてくれたからです。本当にありがとうございました。

生命歯学部 4年
冬季球技大会実行委員長
武田 祥治

診療室での物語

カルテ No.5

総合診療科の長い一日



日本歯科大学附属病院
総合診療科 2 科長

小川智久(82回)

1 年から4年生の学生は、病院臨床実習はどんな様子であるか恐らくイメージが湧いていないと思われます。また、先輩たちから色々聞いてはいるが、どんな患者さんがいらっしゃるのか興味あることでしょう。そこで、今回は日本歯科大学附属病院総合診療科のある一日をふり返って、病院ではどんなことが行なわれているか紹介します。

今日の最初の患者さんは、先週上

顎前歯部を歯周外科手術したAさんの抜糸です。Aさんは数年前に治療した前歯部のブリッジの歯冠長(歯の長さ)をもう少し長くしてほしいということで来院されました。どのように治療したかという、数年前に装着したというブリッジを除去して仮歯を作成した後、上顎前歯部に歯周外科手術である歯冠延長術を行いました。痛みを伴う外科手術でしたが、本人のイメージ通りに治療したようで、非常に感謝されました。ところがこのAさん、以前酔っぱらって治療に来たことがあるのです。授業でも教わると思いますが、泥酔患者でも診療は行なわなければなりません。このような患者さんですが、非常に気さくなために担当学生とすぐに仲良くなり、旅行に行くという学生にお土産を買ってきてくれます。ただ、たまに自分で仮歯を瞬間接着剤で着けてしまうという困った行動をとるので、いつも注意されています。次は20年間夫婦で定期的に通院されている方です。二人とも70代後半ですが、ご主人は親知らずまですべての歯がほぼ健康な状態で残っています。一方奥様は上顎が総義歯ですが、下顎はすべての歯

が健康な状態で残っていて、20年間口腔内の状態は変わっていません。午前中最後の患者さんは、この紙面上では書けないことが起こり科長の私に担当が変更になりました。

午後1時はようやく普通の歯科治療ができたのですが、2時には何と「医療裁判中の者だが歯が折れたのでみてほしい」と突然電話で予約された患者さんでした。何も言わずに近くにいた学生を担当として付け、話を聞くととても攻撃的であり、治療について説明すると絵に描いて説明しろと言うので、絵が下手な私は学生に描くよう命じると「できません」との当然の回答でした。でも、このような患者さんであっても治療に来るということは困っているのであり、そんな時は「あなたはちゃんとした治療を受けたいのでしょ」、「私もしっかり治療したいのですよ。だから目的は一緒なのですよ。」と言うと大抵スムーズに行くのです。このようなやり取りは医療コミュニケーションという技法であり、病院内の講演会などで学生も勉強ができるので参加してみてください。結局この患者さんは、折れた歯をきれいに修復して機嫌良く帰られました。

3時は私が学生時代に教わった本学教養課程のB先生でした。10年くらい定期的に通院されていますが、先週から左側の顎の辺りが突然痛くなったとのこと。しかし、口腔内を良く観察しレントゲン撮影しても、痛みの原因と思われるような歯は見あたりません。とても困ってしまうのですが、そのような時は歯が原因でない慢性疼痛が顎関節関連の痛みが疑われるので、咬筋を触診するとかなり痛みを感じるとのことです。

このように、たった1日でもいろんな患者さんと触れ合える楽しい環境です。今日来院された患者さんも個性的ですが、まだまだもっと上手がいます。簡単に紹介すると、スイカを10箱や米150キロ持って来て皆さんで分けてくださいと言う方もいました。

診療室での物語ということで、今回は1日だけを紹介しましたが、総合診療科での病院臨床実習は実に楽しく、そしてこれまで講義や実習で学んだことが臨床として経験できるのです。そして国家試験へ向けて知識を整理できる1年間ですので、楽しみにしてください。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で